

# House-Tree-Person test を用いた 不登校児の心理分析

Psychological analysis of junior-high-school  
non-attendant students using  
House-Tree-Person test

栗岩 瑞生, 渡辺タミ子, 大山 建司

KURIHWA Mizuki, WATANABE Tamiko, OHYAMA Kenji

## 要 旨

中学校不登校児 19 名を対象として HTP-test を行った。

その特徴的な描画表現の分析から、不登校男女の共通の特徴として、対人関係への強い関心と不適切感、自己顕示欲と抑鬱感情、家庭への不満等が挙げられた。男子の特徴として、融通の無さと自我機能の弱さ、衝動性等が挙げられ、女子では対人関係への強い関心と自己防衛、現実回避等が特徴として挙げられた。これらは思春期までに達成されるべき発達課題が未獲得であったり、生育歴や家庭関係等が関係していると推測され、こういった本人の未成熟さに注目し、自己の成長を促していくような対応が必要である。

キーワード 不登校児, 描画テスト, 精神発達

Key Words Non-attendant Children, House-Tree-Person Test, Psychological Development

## 緒言

不登校児は年々増加傾向にあり社会問題化しているにも拘わらず、有効な対策が取られていない現状がある<sup>1)2)</sup>。その原因として、彼らの生育歴の検討や心理的要因に対する分析・理解が不十分であることが挙げられている<sup>3)4)</sup>。

描画テストの一つである House-Tree-Person test(以下、HTP-test)は、精神医学的問題や心理社会的問題を示唆するサインのスクリーニング機能に優れており<sup>5)</sup>、様々な疾患で応用範囲が広い検査法である。家屋画には被検者の家庭生活と家族関係が現れ易く、樹木画には強い葛藤や内面の奥深く禁じた感情といった個人の問題が出易く、人物画には自己防衛の様子や、対人態度等が反映されるという。HTP-test は、情動の言語化が適切に行えない小児の心理テストとして有用性が高く実際に多く用いられているが<sup>6)7)</sup>、不登校児を対象とした検討の報告は少ない。

本研究では不登校児を対象として HTP-test を行い、そ

の描画表現から彼らに共通する心理的背景の特性や多様性を明らかにすると共に、その原因について検討する。

## 対象および方法

### 1. 対象

Y県N市の適応指導教室(不登校児に心の居場所を提供する目的で設置されている教育委員会管轄の施設)に通う中学生の内、HTP-testの目的について説明を行い、了解を得られた者 19 名(男子 8 名, 女子 11 名)、中学一年生 6 名, 二年生 11 名, 三年生 2 名である。

### 2. 方法

#### (1) HTP-test について

B5 版の白ケント紙 3 枚と HB の鉛筆 2 本と消しゴムを用意し、家屋画 樹木画 人物画の順に一枚に一つずつ絵を描いてもらう。但し家屋画は紙を横に、樹木画と人物画は紙を縦に使用する。時間制限は無く、木は「一本」、人は「一人・全身」という条件を付け、描画中の質問には一切答えない。描画に取り組む態度や質問、描く順番、完成までの所要時間等は、被検者に気付かれないよう別紙に記

受理日: 2002年11月1日

山梨大学: University of Yamanashi

録しておく。

描画後に, Post-Drawing-Interrogation(以下, PDI)という各々の絵についての質問を必ず行う。なお, 女子は二人ずつ, 男子は一人ずつ個室で実施した。また描画テスト実施に際し, 検査者と被検者間に信頼関係が形成されている事が前提となっており, ボランティアとして関わりを持つ中で関係性を深めた後に実施した。

### (2) コントロール群について

コントロール群としては, 高橋<sup>8)</sup>の報告した不登校状態ではない(以下, 非不登校児)13歳~15歳の中学生270名(男子143名, 女子127名)に実施したHTP-testの結果を比較対象として用いた。

### (3) 描画の解析方法について

描画の解釈は 全体的評価 形式分析 内容分析 PDIの過程から総合的に分析した。ただし共通項目の抽出は男女共に70%以上に認められた項目とした。また対象と非不登校児のHTP-testにおける描画表現の出現率に関する差の検定は, 1%の有意水準で二群の比率の差の検定<sup>9)</sup>を行った。

## 結果

### 1. HTP-testの個人分析例

不登校児の描画例を図1~3に示す。これは, 家庭環境の急激な変化や友人関係での不適応から不登校になったと考えられる中学2年生男子の描画である。以下, この描画に対する著者の解釈を示す。家屋画(図1)では, 過大サイズ・切断・不安定な筆圧・大きい扉・取っ手の強調, 窓枠のない窓等の描写が特徴として挙げられる。過大サイズは自己顕示性を, 屋根・壁の線の不安定さは自我の弱っていることを窺わせる。8つに仕切られたアパートは家族間の親密さにかけること, 家族に対しても用心深く過ごしていること, 取っ手の強調は外界に対して自分を閉ざしていること, インターホンの強調は外界との接触を望む気持ちを表している。閉ざされた窓は家庭内の問題を見せた



図1 不登校中学2年生男子: 家屋画

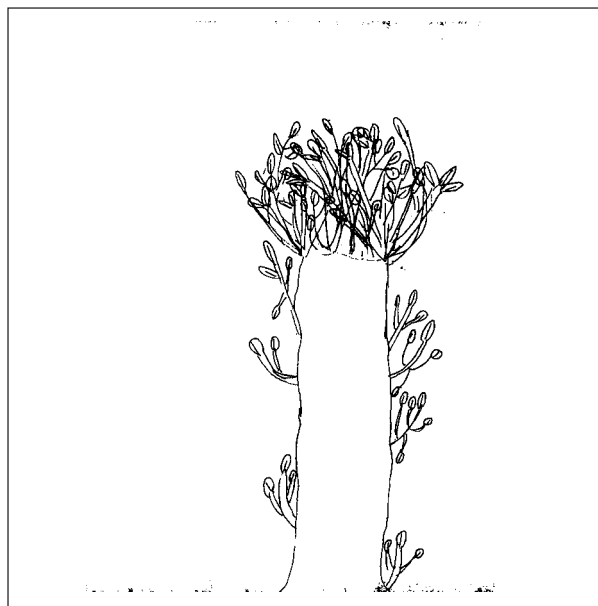


図2 不登校中学2年生男子: 樹木画

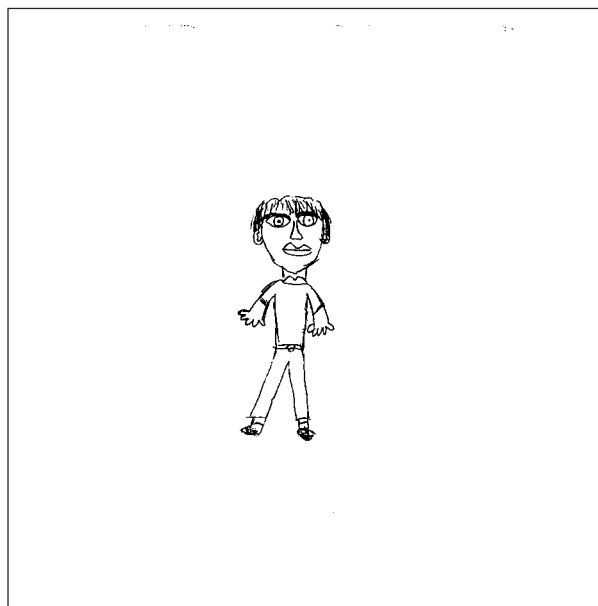


図3 不登校中学2年生男子: 人物画

くない気持ち, 窓枠・カーテン等のない窓は外界との直接的・短絡的な関係づけしかされない様子を表している。樹木画(図2)は, 強い筆圧で描かれ, ひこばえ・半解放の太い幹・空白の樹皮・樹冠が小さい等が特徴として挙げられる。強い筆圧は自己主張的であり, 根と地面が描かれていないことは現実吟味に乏しいこと, ひこばえは自我が育って来ていることを表している。幹の線が滑らかでなく, 行動面で不適応な面があり, 内面にみだされたいものを持っていると思われる。幹は太く対人関係で自分を強く押し出したい気持ち, すなわち自己拡大欲求を持っている。人物画(図3)では, 過小サイズ・頭部や目の強調, 対

称的でない足等の描写が見られる。髪と目の強調は自己防衛したい気持ち、靴の強調は行動に移したい気持ち、顎の線の強調は自己顕示的な気持ち、対称的でない足は行動の不安定性を表している。

2. 不登校児と非不登校児の比較

非不登校児に見られず不登校児に有意に多く見られた項目を図4～6に示す。またそれに該当する心理的特徴に

ついて以下に述べる。

家屋画(図4)形式分析では、不登校女子に濃淡の描写が多く見られ、これから「外界に対する緊張感」や「人間関係での過敏性」「自己防衛的」等の特徴が示された。内容分析では、不登校男女に共通して、一面の壁・扉の取っ手の強調・ステップのある扉がみられ、これから「引き篭り傾向」や「人間関係維持への欲求」「自己顕示性」等が示された。不登校女子では、煙突・薄い煙・茂みや木のある家・花

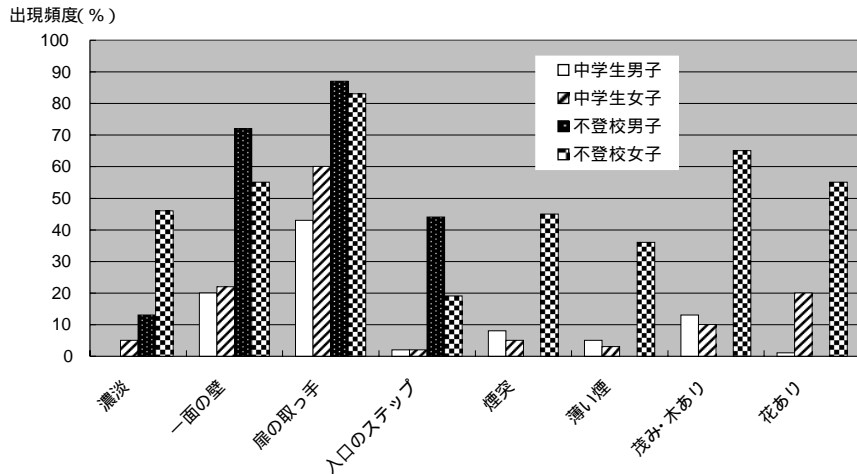


図4 描画項目の出現頻度の比較：家屋画

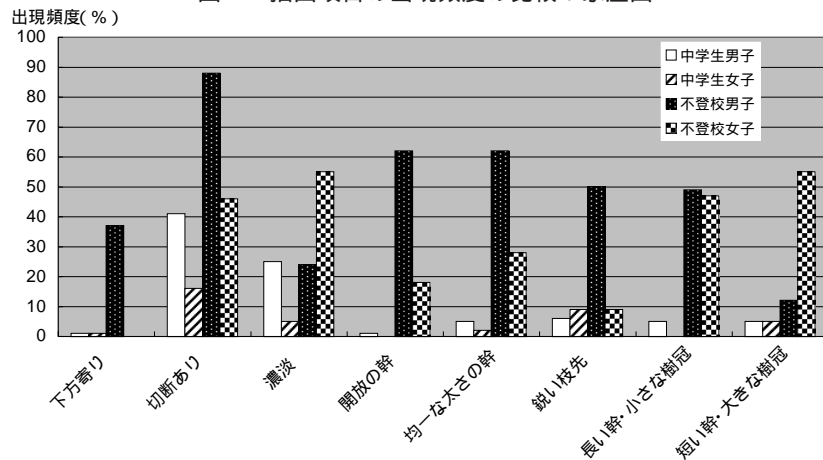


図5 描画項目の出現頻度の比較：樹木画

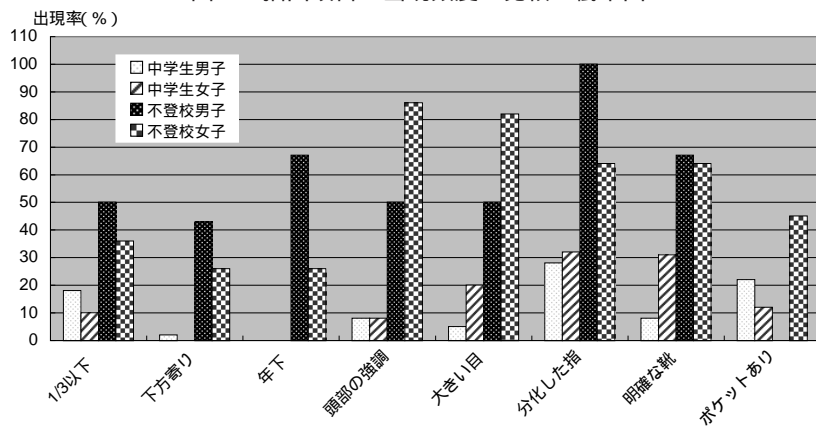


図6 描画項目の出現頻度の比較：人物画

のある家が多く見られ,これから「家庭や家族の温かさへの関心と欲求」「幼児性」「自己防衛性」「依存欲求」「女性性」等が示された。

樹木画(図5)形式分析では,不登校男子において,下方寄りの絵や用紙で切断された絵が多く見られ,これから「未来への展望欠如」「想像力の乏しさ」「不適切感」「安定欲求」「易影響性」等が特徴として示された。また不登校女子では,用紙で切断された絵や濃淡の描写が多く見られ,これから「自己中心的」「易影響性」「空想的」「外界接触への緊張感」「不安」「自己防衛的」「易感傷性」等が特徴として示された。内容分析において,不登校男女に共通して,二本線で交わらない開放の幹や均一な太さの幹,先の鋭い枝・幹が長く小さい樹冠等が多く見られ,これから「感情表出の抑制」「自我機能の弱さ」「不適応」「融通の無さ」「敵意」「情緒の未成熟性」「退行した精神状態」等の特徴が示された。不登校女子では幹が長く大きい樹冠が見られたことから,「人間関係での不適応」という特徴が示された。

人物画(図6)形式分析では,人物画のサイズは,不登校男女共に小さいサイズが大部分を占め,これから「無力感」「劣等感」「不適切感」が特徴として示された。また絵の位置も,不登校男女共に下方寄りが有意に多く認められ,これから「未来へ展望欠如」「想像力の乏しさ」「安定欲求」等が特徴として示された。内容分析では,不登校男女に共通して多く見られた項目は,頭部の強調・大きな目・分化して描かれた指・明確な靴の描写であり,これから「人間関係への関心と回避」「警戒心」「自己愛傾向」「他者を気にし過ぎる」等の特徴が示された。また不登校女子に多く見られた項目は,陰影のある頭髮・ポケットのある服であり,これから「不安」「幼稚性」「依存性の強さ」等が特徴として示された。描かれた絵の年齢は,男女共に非不登校児では年上であったが,不登校児では年下が多く描かれており,特に男子で顕著であった。

## 考察

思春期は,身体的変化や心の変化,人間関係の変化,そして価値観の変化など,様々な変化を経験しながらそれを乗り越え,成長していく時期<sup>9)</sup>である。この時期の発達の危機を乗り越えるためには,エリクソンの精神発達過程<sup>10)</sup>の中で幼児期・学童期に達成されるべき自律性や積極性の感覚・生産性の感覚を獲得していることが重要である。不登校の背景には,本人のパーソナリティ,生育歴,発達課題,家族力動,学校の状況,社会状況等といった要因が複雑に絡み合っていると考えられ,その解決は不登校児にとって容易なものではない。

描画において,子どもは見たものを模写するのではなく,子どもなりに理解したものを描くと言われている。そのため,自分のイメージを描き出すHTPは人格の深い部分からの表現と考えられる。家屋画には家庭生活・家族関

係が表れ,自分に不満を抱かしている家庭,自分が望む家庭,家族が自分に抱いていると思われる感情等が表現される。樹木画には,自分に対する無意識の感情が表れ,本来のパーソナリティが表現されると考えられている。そのため強い葛藤や内在する感情が表れると言われている。人物画では,身体は衝動,手足は外界への働きかけ,頭はそれらを統制するものを表しているため,自己防衛,外界接触等の様子が表現される。以上のようなHTPテストの特徴から,描画は不登校児の内面を探り,どのような援助が適当であるかを考える資料として有用と考えられる。そこで,本研究では不登校児にHTPテストを行ない,描画の中から共通する部分を抽出して,不登校児に共通する心理的特徴を把握しようと試みた。

不登校児と非不登校児の描画を比較し,非不登校児に見られず不登校児に多く現れた特徴を抽出し,個人分析に述べたように,そこから読み取れる心理的背景を列挙し,共通性の高い項目から不登校児に共通する心理的背景を推測した。不登校男女に共通にみられる心理的背景は,自我機能の弱さ,情緒の未熟性,融通のなさ,感情表出の抑制,引き籠り,敵意,自己顕示性,人間関係への関心と回避,警戒心,他者への過剰意識,将来展望の欠如,劣等感,無力感,不適切感である。男児にみられる心理的背景は,将来展望の欠如と想像力の乏しさ,易影響性,安定欲求,敵意である。女児にみられる心理的背景は,自己防衛的,外界に対する緊張感,自己中心的,空想的,幼稚性,不安定感である。不登校児にみられたこれらの心理的特徴から,不登校児は,引き籠り状態にありながらも外界や他人に強い関心を持ち,それに対する接触欲求を強く持っている。しかし外界適応が不十分なため,不安定感や無力感が強くなり,様々な欲求不満が鬱積してくる。男子では,衝動的欲求を抑制しようと努力するが,易興奮性や衝動性が内在してくる。女子では,外界接触への緊張感から自己防衛的となり現実から空想世界へ回避する傾向が強くなる。また男女共に,将来への展望や想像力の乏しさ・融通の無さ・幼稚性が共通しており,これらは自我の同一性が達成されていない事を示唆している。

今回の対象は19例と少なく,この結果が不登校児に共通する心理的背景であるとは考えていない。不登校児には個々の特徴があり,対応は個別に行なわれる必要がある。しかし,不登校児が増加している現状を見る時,そこに共通した背景の存在を仮定して検討していくことは,社会現象としての不登校への対応を考える上で重要である。本研究において見られたHTPテストにおける共通性をさらに例数を増やして検討していくことは,不登校児の理解と教育・医療的な対応を考える上で有用と考える。

謝辞: 稿を終えるに当たり,HTP-testの方法,解析について御教授下さいました広島大学教育学部松橋有子先

生に深謝致します。

本研究の一部は“子供の心と身体の健康を考える会”の助成を受けた。

#### 文献

- 1) 生活指導上の諸問題と文部省の施策について(その3・4)第5章, 登校拒否, 1999.
- 2) 北村陽英(1995)中学生不登校. 臨床精神医学, 24(11): 1385-1391.
- 3) 佐野勝徳, 炭田ふさ子(1984)生育歴から見た登校拒否の発生要因とその予防法について. 児童精神医学とその近接領域, 25(5): 285-295.
- 4) 長谷川裕美子(1998)描画表現から見た不登校児の検討. 臨床精神医学, 27: 1547-1555.
- 5) 福西勇夫, 菊池道子(2000)心の病の治療と描画法. 現代のエステプリ, 390: 5-34.
- 6) 家族画研究会編(1989)臨床描画研究 第二刷. 東京, 金剛出版.
- 7) 松橋有子, 御子柴明子(1999)小児科医が診た不登校. 初版第一刷, 京都, 北大路出版.
- 8) 高橋雅春, 高橋依子 共著(1991)描画テスト入門. 初版第一刷, 東京, 文教書院.
- 9) 氏原寛, 小川捷之, 東山紘久 他共著(1995)心理臨床大辞典. 初版第三刷, 東京, 培風館: 102-106.
- 10) Erikson. E. H(小比木啓吾 訳編)(1973)自我同一性. 東京, 誠信書房.